

| | | | | | | | |
|---------|---|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 理学療法研究法Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 菊池賢汰 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験，各種学会で発表・論文執筆経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 2 | 時間数 | 45 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/演習/実習 | | | | | | |

授業概要

1. 理学療法における研究の必要性を学修します。
2. 理学療法分野における研究手法を学修します。
3. 統計解析に関する基礎的知識を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における研究の位置づけを説明できる。
2. 理学療法研究の流れを説明できる。
3. 模擬研究計画書を作成できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | 理学療法研究法とは |
| 第2回 | 理学療法における研究の位置づけ |
| 第3回 | 理学療法研究を始めるための準備 |
| 第4回 | 研究デザインの基礎的知識 |
| 第5回 | 観察研究の基礎的知識 |
| 第6回 | 介入研究の基礎的知識 |
| 第7回 | データの特性と測定前の事前計画 |
| 第8回 | 研究計画書の作成方法 |
| 第9回 | 倫理的配慮と倫理審査申請書 |
| 第10回 | 文献検索の必要性和実践の方法 |
| 第11回 | 統計解析のための基礎的知識 |
| 第12回 | 統計解析の基礎的知識（差の検定） |
| 第13回 | 統計解析の基礎的知識（分散分析） |
| 第14回 | 統計解析の基礎的知識（相関分析） |
| 第15回 | 統計解析の基礎的知識（回帰分析） |
| 第16回 | 統計解析の基礎的知識（カイ二乗検定） |
| 第17回 | 統計解析の基礎的知識（その他） |
| 第18回 | 研究計画書の作成① |
| 第19回 | 研究計画書の作成② |
| 第20回 | 研究計画書の作成③ |
| 第21回 | 研究計画書の作成④ |
| 第22回 | 研究計画書の作成⑤ |
| 第23回 | 研究計画書の作成⑥ |

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

最新理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義内容には理学療法研究において使用される用語が頻出します。日頃から論文に触れる機会を多くもち、講義に臨んでください。

| | | | | | | | |
|---------|---|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅱ | | | | | | |
| 担当講師 | 菊池賢汰 戸来幸恵 及川龍彦 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 前期 |
| 授業形態 | 講義/オムニバス | | | | | | |

授業概要

画像情報やラボデータから対象者の状態を推測する流れを学習します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法における医学的情報の概要および活用方法を説明できる。
2. 各種脳画像の特徴と病変の捉え方を理解する。
3. 内部障害系理学療法における医学情報の活用法を理解する。

授 業 計 画

| | | |
|------|---------------------------|------|
| 第1回 | 骨関節疾患における画像評価の概要 | 菊池賢汰 |
| 第2回 | 骨関節疾患における正常画像の診かた①（上肢） | 菊池賢汰 |
| 第3回 | 骨関節疾患における正常画像の診かた②（下肢・体幹） | 菊池賢汰 |
| 第4回 | 骨関節疾患における異常画像の診かた | 菊池賢汰 |
| 第5回 | 骨関節疾患における主要な検体検査情報 | 菊池賢汰 |
| 第6回 | 脳画像を読むための基礎知識 | 戸来幸恵 |
| 第7回 | 頭部CTの特徴と病変の捉え方 | 戸来幸恵 |
| 第8回 | 脳血管障害のCT画像 | 戸来幸恵 |
| 第9回 | 頭部MRI・MRAの特徴と病変の捉え方 | 戸来幸恵 |
| 第10回 | 理学療法評価において注目すべき所見 | 戸来幸恵 |
| 第11回 | 内部障害系疾患における情報の位置付け | 及川龍彦 |
| 第12回 | 内部障害系理学療法における血液検査データの取り扱い | 及川龍彦 |
| 第13回 | 内部障害系理学療法における画像データの取り扱い | 及川龍彦 |
| 第14回 | 内部障害系理学療法における心電図の取り扱い | 及川龍彦 |
| 第15回 | 内部障害系疾患におけるさまざまなデータの取り扱い | 及川龍彦 |

評価方法

筆記試験（菊池1/3，戸来1/3，及川1/3）

教科書

神経筋障害理学療法テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

運動器障害理学療法学テキスト（南江堂） 絵でみる脳と神経(医学書院) 内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に関わります。十分に復習した上で臨んでください。（菊池）脳・神経についての復習を十分に行ってください。（戸来）

内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。（及川）

| | | | | | | | |
|----------------|---|------------|---|------------|----|-------------|----|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅲ | | | | | | |
| 担当講師 | 菊池賢汰 戸来幸恵 及川龍彦 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 前期 |
| 授業形態 | 講義/実技/オムニバス | | | | | | |

授業概要

機器を用いた理学療法評価の種類や方法を理解し、その活用方法について学修します。
 内部障害系理学療法における機器を用いた理学療法評価の種類や方法を理解し、その活用方法について学習します。

学修到達目標

1. 筋力検査の目的と検査方法を理解できる。
2. 骨関節系理学療法における評価機器を用いた情報の活用方法を説明できる。
3. 内部障害系理学療法における機器を用いた情報の活用方法を理解する。

授 業 計 画

| | | |
|-------------|------------------------|------|
| 第1回 | 筋力・筋力低下の要因 | 戸来幸恵 |
| 第2回 | 筋力検査の目的・測定手順・測定時の注意点 | 戸来幸恵 |
| 第3回 | 等尺性筋力検査 | 戸来幸恵 |
| 第4回 | HHDを用いた筋力検査の実践 | 戸来幸恵 |
| 第5回 | 等速性筋力検査・粗大筋力検査 | 戸来幸恵 |
| 第6回 | 骨関節系理学療法で用いられる評価機器① | 菊池賢汰 |
| 第7回 | 骨関節系理学療法で用いられる評価機器② | 菊池賢汰 |
| 第8回 | 骨関節系理学療法における動作解析装置の活用 | 菊池賢汰 |
| 第9回 | 骨関節系理学療法における筋電図の活用 | 菊池賢汰 |
| 第10回 | 骨関節系理学療法における床反力計の活用 | 菊池賢汰 |
| 第11回 | 内部障害系理学療法に用いられる機器とその活用 | 及川龍彦 |
| 第12回 | スパイロメトリー | 及川龍彦 |
| 第13回 | 心肺運動負荷試験 | 及川龍彦 |
| 第14回 | 内部障害系理学療法で活用される簡便機器 | 及川龍彦 |
| 第15回 | 内部障害系理学療法における機器の活用（実技） | 及川龍彦 |

評価方法

筆記試験（菊池1/3, 戸来1/3, 及川1/3）

教科書

理学療法評価学（金原出版株式会社）プリント教材

参考図書・文献

運動器障害理学療法学テキスト（南江堂） 内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください。（戸来）
骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に関わります。十分に復習した上で臨んでください。（菊池）
内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。（及川）

| | | | | | | | |
|---------|---|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅳ | | | | | | |
| 担当講師 | 及川龍彦 戸来幸恵 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する. 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する. | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 2 | 時間数 | 45 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/実技/演習/オムニバス | | | | | | |

授業概要

理学療法における質的評価の位置づけを理解し、基本的な評価技術を修得します。

学修到達目標

1. 姿勢・動作・歩行分析について理解し、実践できる。
2. 対象者の全体像を把握できる。
3. 疼痛に対する評価方法を理解し、実践できる。
4. 運動発達検査を理解し、実践できる。

授 業 計 画

| | | |
|------|---------------------|------|
| 第1回 | 姿勢・動作分析に必要な基礎知識 | 及川龍彦 |
| 第2回 | 姿勢・動作分析の概念と評価の目的 | 及川龍彦 |
| 第3回 | 姿勢観察・分析の方法とポイント | 及川龍彦 |
| 第4回 | 姿勢観察の実践とランドマークの確認 | 及川龍彦 |
| 第5回 | 姿勢分析の実践① | 及川龍彦 |
| 第6回 | 姿勢分析の実践② | 及川龍彦 |
| 第7回 | 歩行分析に必要な基礎知識・異常歩行 | 及川龍彦 |
| 第8回 | 歩行分析の方法とポイント | 及川龍彦 |
| 第9回 | 歩行観察の実践 | 及川龍彦 |
| 第10回 | 歩行分析の実践① | 及川龍彦 |
| 第11回 | 歩行分析の実践② | 及川龍彦 |
| 第12回 | 動作観察・分析の方法とポイント | 及川龍彦 |
| 第13回 | 動作観察の実践 | 及川龍彦 |
| 第14回 | 動作分析の実践① | 及川龍彦 |
| 第15回 | 動作分析の実践② | 及川龍彦 |
| 第16回 | 全体像把握のためのカルテからの情報収集 | 及川龍彦 |
| 第17回 | 全体像の把握①（演習） | 及川龍彦 |
| 第18回 | 全体像の把握②（演習） | 及川龍彦 |
| 第19回 | 疼痛評価に必要な基礎知識 | 戸来幸恵 |
| 第20回 | 疼痛評価の目的と方法 | 戸来幸恵 |
| 第21回 | 疼痛評価の実践 | 戸来幸恵 |

第22回 運動発達検査に必要な基礎知識
第23回 運動発達検査の目的と方法、実践

戸来幸恵
戸来幸恵

評価方法

及川担当範囲75% (筆記試験(70%)・レポート課題(30%)) 戸来担当範囲25%(筆記試験)

教科書

プリント教材・理学療法評価学(金原出版)

参考図書・文献

動作分析(メディカルビュー社) ・基礎運動学(医歯薬出版)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

質の評価を行うには解剖学・運動学の知識に基づいた俯瞰的な視点が必要となります。解剖学・運動学の復習を十分に行ってください。(及川)

理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学・人間発達学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください。(戸来)

| | | | | | | | |
|---------|--|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅴ | | | | | | |
| 担当講師 | 長野由紀江 戸来幸恵 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 2 | 時間数 | 60 | 開講時期 | 通年 |
| 授業形態 | 講義/実技/オムニバス | | | | | | |

授業概要

理学療法における徒手の検査測定法の基礎を理解し、その技術を習得します。

学修到達目標

1. 関節可動域測定の基本的測定を理解し、実践できる。
2. 徒手筋力検査法の基本的測定を理解し、実践できる。
3. 整形外科的検査の方法を理解し、実践できる。
4. 協調運動機能検査の理論を理解し、方法を身につける。
5. 筋緊張検査の理論を理解し、方法を身につける。
6. 病的反射検査の理論を理解し、方法を見つける。
7. バランス検査の理論を理解し、方法を見つける。

授 業 計 画

| | | |
|------|---------------------------|-------|
| 第1回 | 関節可動域測定の意義・目的と可動域制限因子について | 長野由紀江 |
| 第2回 | 関節可動域測定：肩甲帯・肩関節 | 長野由紀江 |
| 第3回 | 関節可動域測定：肘関節・前腕・手関節 | 長野由紀江 |
| 第4回 | 関節可動域測定：股関節・膝関節 | 長野由紀江 |
| 第5回 | 関節可動域測定：足関節・足部 | 長野由紀江 |
| 第6回 | 関節可動域測定：頸部・胸腰部 | 長野由紀江 |
| 第7回 | 関節可動域測定：手指・足趾 | 長野由紀江 |
| 第8回 | 徒手筋力検査の意義・目的と判定基準について | 長野由紀江 |
| 第9回 | 徒手筋力検査：肩甲帯・肩関節のテスト | 長野由紀江 |
| 第10回 | 徒手筋力検査：肘関節・前腕・手関節のテスト | 長野由紀江 |
| 第11回 | 徒手筋力検査：股関節・膝関節・足関節のテスト | 長野由紀江 |
| 第12回 | 徒手筋力検査：頸部・体幹筋のテスト | 長野由紀江 |
| 第13回 | 徒手筋力検査：手指・足趾のテスト | 長野由紀江 |
| 第14回 | 整形外科的検査① | 長野由紀江 |
| 第15回 | 整形外科的検査② | 長野由紀江 |
| 第16回 | リハビリテーション医療における理学療法評価 | 戸来幸恵 |
| 第17回 | 病的反射検査の種類と方法 | 戸来幸恵 |
| 第18回 | 病的検査の種類と方法（実技） | 戸来幸恵 |
| 第19回 | 脳神経検査の種類と方法① | 戸来幸恵 |

| | | |
|------|-----------------------|------|
| 第20回 | 脳神経検査の種類と方法② | 戸来幸恵 |
| 第21回 | 筋緊張の基礎知識と筋緊張異常について | 戸来幸恵 |
| 第22回 | 筋緊張検査の種類と方法 | 戸来幸恵 |
| 第23回 | 筋緊張検査の種類と方法（実技） | 戸来幸恵 |
| 第24回 | 協調性運動障害の概要 | 戸来幸恵 |
| 第25回 | 協調性運動機能検査の種類と方法 | 戸来幸恵 |
| 第26回 | 協調性運動機能検査の種類と方法（実技） | 戸来幸恵 |
| 第27回 | 姿勢バランスの概要 | 戸来幸恵 |
| 第28回 | 座位・立位バランス検査の種類と方法 | 戸来幸恵 |
| 第29回 | 座位・立位バランス検査の種類と方法（実技） | 戸来幸恵 |
| 第30回 | パフォーマンステストの種類と方法（実技） | 戸来幸恵 |

評価方法

長野担当範囲50%(筆記試験60% 実技試験40%) , 戸来担当範囲50%(筆記試験)

教科書

臨床での検査精度を高める！ROM測定法(メジカルビュー社) 臨床での検査精度を高める！MMT(メジカルビュー社)
理学療法評価学(金原出版) プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

臨床で、最も多く利用される検査です。練習を重ね技術して身につけて下さい。(長野)
理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行って下さい。(戸来)

| | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 骨関節系理学療法学Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 菊池賢汰 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/演習/実習/グループワーク | | | | | | |

授業概要

骨関節系理学療法の基礎的知識と理学療法における考え方を学修します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法の必要性を説明できる。
2. 骨関節系理学療法の流れを説明できる。
3. 骨関節系理学療法における基礎的知識を習得する。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 骨関節系理学療法の概要 |
| 第2回 | 肩関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第3回 | 肩関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第4回 | 肘関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第5回 | 肘関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第6回 | 手関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第7回 | 手関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第8回 | 股関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第9回 | 股関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第10回 | 膝関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第11回 | 膝関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第12回 | 足関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第13回 | 足関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第14回 | 脊椎疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第15回 | 脊椎疾患に対する理学療法の流れ |

評価方法

筆記試験

教科書

運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（南江堂）プリント教材

参考図書・文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第3版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に大きく関わります。十分に復習した上で講義に臨んでください。

| | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 中枢神経系理学療法学Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 戸来 幸恵 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/実技/演習 | | | | | | |

授業概要

中枢神経系理学療法の必要性と理学療法における位置づけを学修します。

学修到達目標

授 業 計 画

- 第1回 中枢神経系理学療法の基礎知識
- 第2回 脳血管障害の概要と病態
- 第3回 脳血管障害後の機能回復について
- 第4回 脳血管障害における医学的管理
- 第5回 脳血管障害における理学療法の流れ
- 第6回 脳血管障害における運動障害の特徴
- 第7回 脳血管障害に対する理学療法評価①
- 第8回 脳血管障害に対する理学療法評価②
- 第9回 脳血管障害に対する理学療法評価③
- 第10回 脊髄損傷の概要と病態
- 第11回 脊髄損傷の合併症について
- 第12回 脊髄損傷における特異的な検査・測定
- 第13回 脊髄損傷に対する理学療法評価①
- 第14回 脊髄損傷に対する理学療法評価②
- 第15回 脊髄損傷に対する理学療法評価③

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂） 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム（医学書院）

参考図書・文献

理学療法評価学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

| | | | | | | | |
|---------|----------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 内部障害系理学療法学Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 及川龍彦 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義 | | | | | | |

授業概要

内部障害系理学療法の必要性和理学療法における位置づけを学修します。

学修到達目標

1. 内部障害系理学療法の必要性を理解する。
2. 内部障害系理学療法の流れを理解する。
3. 内部障害系理学療法実施に必要な知識を羅列できる。

授 業 計 画

- 第1回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識①
- 第2回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識②
- 第3回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識③
- 第4回 内部障害系理学療法に用いられる用語とその意味
- 第5回 呼吸器疾患の病態
- 第6回 呼吸器疾患に対する理学療法の考え方
- 第7回 呼吸器疾患に対する理学療法の流れ
- 第8回 心大血管疾患の病態
- 第9回 心大血管疾患に対する理学療法の考え方
- 第10回 心大血管疾患に対する理学療法の流れ
- 第11回 心肺腎の関連
- 第12回 代謝系疾患の病態
- 第13回 代謝系疾患に対する理学療法の考え方
- 第14回 代謝系疾患に対する理学療法の流れ
- 第15回 理学療法と人工透析

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。

| | | | | | | | |
|---------|----------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 物理療法学Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 及川龍彦 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/演習 | | | | | | |

授業概要

理学療法における物理療法の位置づけと治療の背景に存在する生理学的基礎を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけを理解できる。
2. 物理療法の種類を羅列できる。
3. 物理療法の生理学的・物理学作用を理解出できる。

授 業 計 画

- 第1回 物理療法概論①
- 第2回 物理療法の歴史①（演習）
- 第3回 物理療法の歴史②（演習）
- 第4回 温熱療法の生理学的作用①
- 第5回 温熱療法の生理学的作用②
- 第6回 温熱療法の生理学的作用③
- 第7回 寒冷療法の生理学的作用①
- 第8回 寒冷療法の生理学的作用②
- 第9回 水治療法の生理学的・物理学的作用①
- 第10回 水治療法の生理学的・物理学的作用②
- 第11回 水治療法の生理学的・物理学的作用③
- 第12回 光線療法の生理学的作用①
- 第13回 光線療法の生理学的作用②
- 第14回 牽引療法の物理学的作用
- 第15回 物理療法と運動療法

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・物理療法学（金原出版）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

物理療法は操作マニュアルよりも，改善に至る生理学的な根拠の理解が必要になりますのでしっかり学習してください。

| | | | | | | | |
|---------|--------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 装具学 | | | | | | |
| 担当講師 | 戸来 幸恵 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義/実技/演習 | | | | | | |

授業概要

装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法について修得します。

学修到達目標

1. 装具の基本的な構造や機能が理解する。
2. 疾患や障害に適した装具が選択できる。
3. 装具療法について理解できる。

授業計画

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | 装具学総論 |
| 第2回 | 装具を理解するための運動学 |
| 第3回 | 短下肢装具 |
| 第4回 | 長下肢装具 |
| 第5回 | 靴型装具 |
| 第6回 | 下肢装具のチェックアウト |
| 第7回 | 上肢装具 |
| 第8回 | 上肢装具のチェックアウト |
| 第9回 | 頸部体幹装具 |
| 第10回 | 頸部体幹装具のチェックアウト |
| 第11回 | 脳卒中片麻痺に対する装具 |
| 第12回 | 脊髄損傷に対する装具 |
| 第13回 | 小児疾患に対する装具 |
| 第14回 | 整形外科疾患に対する装具 |
| 第15回 | スポーツ外傷に対する装具 |

評価方法

筆記試験

教科書

義肢装具学テキスト(南江堂)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

装具について理解を深めるためには、解剖学、運動学、各疾患に対する知識が必要となりますので、各科目の復習を行って講義に臨んでください。

| | | | | | | | |
|---------|---------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 福祉用具学 | | | | | | |
| 担当講師 | 竹田 敦子 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 作業療法士 医療施設・介護保険関連施設にて、実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義 | | | | | | |

授業概要

福祉用具の概念や支援方法，関連制度などについて学修を行います。また，対象者の身体状況や環境の評価に基づいた福祉用具の適応について学修を行います。

学修到達目標

1. 福祉用具の役割や重要性，関連制度を理解することができる。
2. 身体状況や生活環境に応じた福祉用具の選定や支援・活用方法が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 福祉用具関連の制度
- 第2回 機能障害別福祉用具①(筋力低下，随意運動障害)
- 第3回 機能障害別福祉用具②(筋力低下，随意運動障害)
- 第4回 機能障害別福祉用具③(関節可動域障害)
- 第5回 機能障害別福祉用具④(協調性障害他)
- 第6回 機能障害別福祉用具⑤(座位保持障害等)
- 第7回 疾患別福祉用具①
- 第8回 疾患別福祉用具②
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

| | | | | | | | |
|---------|----------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 生活活動学II | | | | | | |
| 担当講師 | 中嶋奈津子 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設、介護保険関連施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 前期 |
| 授業形態 | 講義/演習/実習 | | | | | | |

授業概要

1. 対象者の生活活動の状況を把握するための生活活動の評価について学修します。
2. 対象者の生活活動における制限を軽減するための具体的介入について学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の状況を把握するための評価を挙げ、意義・目的・方法などを述べることができる。
2. 生活活動における評価について、演習を通して理解し、実践することができる。
3. 生活活動の制限に対し、介入する目的と方法を説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 日常生活活動における評価の役割 |
| 第2回 | QOLの概念と評価 1 |
| 第3回 | QOLの概念と評価 2 |
| 第4回 | 日常生活活動の評価概要 1 |
| 第5回 | 日常生活活動の評価概要 2 |
| 第6回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 1 |
| 第7回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 2 |
| 第8回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 3 |
| 第9回 | 日常生活活動の評価 質的評価 1 |
| 第10回 | 日常生活活動の評価 質的評価 2 |
| 第11回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 1 |
| 第12回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 2 |
| 第13回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 3 |
| 第14回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者環境への介入 1 |
| 第15回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者環境への介入 2 |

評価方法

筆記試験

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性がありま。

| | | | | | | | |
|---------|----------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 対象者支援学Ⅰ | | | | | | |
| 担当講師 | 中嶋奈津子 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 理学療法士 医療施設、介護保険関連施設において実務経験を有する。 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 講義・実技・演習 | | | | | | |

授業概要

対象者の自立生活支援をするために必要な対象者への教育や、生活環境調整に必要な評価、支援方法を理解するための知識、思考を修得します。

学修到達目標

1. ポジショニング、シーティングにおける座位保持について理解する。
2. 患者教育の必要性を理解し、指導できるスキルを修得する。
3. 生活環境の概要と対象者の生活環境評価の過程を理解する。
4. 対象者がその環境に適応するように環境改善するための手段を理解する。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 姿勢保持の基本 |
| 第2回 | 姿勢の評価とポジショニング |
| 第3回 | ポジショニングの実践 |
| 第4回 | 座位姿勢を考える |
| 第5回 | 車椅子処方の基礎 |
| 第6回 | 車椅子・シーティングの実践① |
| 第7回 | 車椅子・シーティングの実践② |
| 第8回 | 障害者総合支援法について |
| 第9回 | 患者・家族教育の必要性 |
| 第10回 | 患者教育・指導の実践 |
| 第11回 | 地域環境の現状 |
| 第12回 | 生活環境を知る |
| 第13回 | 身体能力と環境とのマッチング |
| 第14回 | 居住環境の整備 |
| 第15回 | 福祉用具・社会生活支援用具等による生活支援 |

評価方法

レポート課題

教科書

参考図書・文献

標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(医学書院)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

【専門分野】

【理学療法学科】

| | | | | | | | |
|---------|-------------------------------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 地域理学療法学Ⅱ | | | | | | |
| 担当講師 | 佐藤浩哉 | | | | | | |
| 実務経験の概要 | 医学博士、理学療法士、介護支援専門員、病院・介護施設等での実務経験あり | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 | 開講時期 | 通年 |
| 授業形態 | 講義 | | | | | | |

授業概要

地域（在宅）で、障害者・高齢者が障害を持ちながら、生活していくためには何が必要で、どう支援していく事が必要なのか。より具体的な支援の方法について学修します。

学修到達目標

障害者・高齢者の方が、地域の中で自立した生活を営んでいくのに、必要な知識を説明できることを目指します。

授業計画

- 第1回 スマホ脳と運動脳 ～ 概要説明と紹介
- 第2回 社会情勢と地域理学療法
- 第3回 地域における対象者のニーズとは？ ～ その捉え方1
- 第4回 地域における対象者のニーズとは？ ～ その捉え方2
- 第5回 理学療法的支援1～起居動作・良肢位
- 第6回 理学療法的支援2～移乗・移動動作
- 第7回 振り返り～1
- 第8回 理学療法的支援3～食事
- 第9回 理学療法的支援4～排泄
- 第10回 理学療法的支援5～社会参加
- 第11回 理学療法的支援6～フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア
- 第12回 振り返り～2
- 第13回 理学療法的支援6～認知症・軽度認知症
- 第14回 理学療法的支援7～環境の側面
- 第15回 振り返り～3

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学（医学書院） プリント資料

参考図書・文献

理学療法テキスト 地域理学療法学（中山書店）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

地域（在宅）で自立した生活を営むためには何が必要か？考え方や具体的な手段について学んでいきます。尚、講義内容については随時変更になる可能性があります。

| | | | | | | | |
|------|------------|-----|---|-----|----|------|----|
| 科目名 | 地域理学療法導入実習 | | | | | | |
| 履修年次 | 2 | 単位数 | 1 | 時間数 | 45 | 開講時期 | 後期 |
| 授業形態 | 実習 | | | | | | |

実習目的

- 1, 在宅生活を営む対象者の生活状況と障害の関連を考察します。
- 2, 対象者が持つ問題それぞれの関連を理解し、求められるニーズを考察します。

実習概要

通所・訪問リハビリテーションサービス提供事業所での実習を通じ、地域に在住する対象者の障害像と実生活の関連に関する理解を深めます。

学修到達目標

- 1, 実生活を営む対象者の状況と障害の関連を理解します。
- 2, 対象者が持つ問題それぞれのつながりを理解します。
- 3, 通所・訪問リハビリテーションサービスの業務を理解します。

評価方法

提出課題70% 実習生評価記録指導者総合評価30%

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「地域理学療法導入実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。